

ITC-J Council No.8



NEWSLETTER

Vol.28 No3 May.13th



年間テーマ 学びほぐし

カウンスルNo.8 第28期会長

八尾和子

第28期第2回会合は、4月14日（土）、島根イン青山において開催いたしました。初めての会場ということ、会員減少による人手不足など不安材料はありましたが、担当クラブの皆様、スピーチコンテスト委員会の皆様始め、お手伝いを申し出てくださった方々など、会員の皆様の協力のおかげで無事終了することができました。

ITC-J 活動のハイライトであるスピーチコンテストでは、カテゴリーが廃止され、日本語の部では全8クラブからの出場者が、日頃の研鑽の成果を存分に発揮して、甲乙つけがたい質の高いスピーチを発表してくださいました。英語の部では3英語クラブの離脱により出場者が1人だったため、カウンスル No.8 の歴史上初めて代表者のデモンストレーションスピーチという形になりました。

プログラム後半1時間を使って、会員減少と高齢化による活動力低下に直面しているカウンスル No.8 の現状を見据えて、今後の在り方について話し合う機会を持ったことは大変有意義だったと思っております。今期新体制の下で2/3の活動を終えた上での各クラブの実情と問題点、またフロアからの斬新な提案など忌憚のない意見を分かち合うことができ、今後の活動の方向を決めるために大いに参考になりました。

次期へのバトンタッチも無事済み、「不易流行」のテーマのもと、守るべきものは守り、現状に合わせて改革すべきものは変えていくという力強い方針が打ち出されましたので、これからも皆が自分のこととして考え方を合わせてより良いカウンスル No.8 にしてまいりましょう。

ITC-J 第36期テーマ： You Raise Me Up やさしさと励ましのコミュニケーション

第28期第2回カウンスル会合

於：島根イン青山パインコート 4月14日(土)10:30~16:25

新しい会場、「島根イン」

2018年4月14日、島根イン青山パインコートにて、第2回カウンスル会合が10時半から行われた。初めての会場なので、場所探しに緊張された参加者もいらっしやっただかと思う。こじんまりした会場正面には恒例の横断幕はなく、スライドで「第28期第2回カウンスル会合 学びほぐし」の文字が正面の壁に浮かび上がっていた。当日のプログラムも受付でもらうのではなく、各自、印刷して持参することになっており、会合運営の簡素化がさっそく始まっていることが感じられた。会合は、ITC-J 宣誓（盛岡、柴田さよ子さん）に続いて、八尾会長の挨拶で始まった。会長は、「ITC(国際) 解散に伴う新組織の立ち上げで、怒涛の1年であったが、No.8にとって一番の打撃は英語3クラブの離脱による、会員の大幅な減少。『学びほぐし』をテーマにするところから簡素化に取り組んだが 道半ばなので来期も継続してもらいたい。」と会場に語りかけた。

次期役員決まる

ビジネス会議は滞りなく進行し、次期役員選挙とその結果の役員紹介が行われた。新役員は、以下の通り。

会長	山口久美子（葦崎）	第一副会長	関原暁子（東京）
第二副会長	永井眞澄（彩玉）	書記	浜上紀子（東京）
会計	林 栄子（彩玉）		

次期書記の浜上紀子さん（東京）は、入会3年目というニューフェイス。若い世代にどんどん活躍して頂きたいという期待を込めて、会場からは温かい拍手が送られた。次期会長、山口久美子さんのテーマは「不易流行」。“変えるべきものは変革し、守るべきものは守る”というこの言葉、ITC-Jと組織が変わったこの時期にまさに私たちが直面しているテーマである。

9人のスピーカー参加、スピーチコンテスト

プログラム「スピーチコンテスト」は、昼食後の12時40分から、ゲスト紹介、インスピレーション（横浜、田村純子さん）に続いて、開始された。プログラムリーダーの島田富美子さん（東京）が笑顔いっぱい登場。スピーカーや会場の緊張をほぐすために、「笑いヨガ」をリードし、会場は、時ならぬ「笑い声」に包まれた。8人の日本語スピーカーがそれぞれ個性あふれるスピーチを披露。内容の豊かさ、話し方の巧みさで、会場を魅了した。今回のスピーカー



9人のスピーカーの皆様、右端はプログラムリーダー

たちは、原稿以外に巧みにアドリブを入れ、（前のスピーカーの言葉を受けたり、会場への自然な話しかけが行われたり…）リラックスした感じが窺えた。入賞者は、1位・森恵美子さん（盛岡）、2位・菊池秀子さん（アクア千葉）、3位・鳥谷まゆみさん（葦崎）。日本語スピーチの後に、小菅あけみさん（盛岡）が「好きなこと」という論題で、英語のデモンストレーションスピーチを行った。審査員の一人、大原慶子さん（カウンスルNo.1、岡崎）からは、「75人の会員なのに、全8クラブから8人プラス1人のスピーカーがご参加。さすがはカウンスルNo.8です！」とお褒めの言葉を頂戴した。



“話し合い ア・ラ・カ・ル・ト”



プログラム終了後、これからのカウンスル No. 8 を考える話し合いが、55 分にわたり行われた。各クラブからの代表が前列テーブルに聴衆と向き合って座り、クラブからの意見の集約を発表。そのあと、会場との意見交換が行われた。八尾会長の司会で、活発な議論が続いた。最後に山口久美子次期会長が、次のようにアナウンス。「会員には有職者も多いから、次の会合も土曜日に行いたい。CMT も、新役員に経験者も多いことから、暑い時期の 8 月には行わない。第一回会合とタイアップさせることを考えています。」会合は、16 時 25 分に終了した。今回の会合参加者は、68 名であった。以上 (文責：ウェブ会報委員)

スピーチコンテスト

No.8 を代表して ITC - J 大会に出場なさるお二人に

***スピーチで一番大切にしている点は？* どんな工夫や苦勞をなさいましたか？**
の2点を含むお話を伺いました。

日本語の部 優勝者 森恵美子さん (盛岡クラブ)

スピーチで大切にしている事

自分の言葉で話し、聞いて下さる方が納得出来る様な話をする事。
聴衆の年代に合わせたテーマを見つける事。

スピーチの工夫・苦勞

何を伝えたいかと自分の話したい事が受け入れやすい様なスピーチの組み立て方をする事。基本的にその場でのお話が多く、苦勞とは考えたことが無く、何を伝えたいかを良く理解し、聴衆の反応を見ながら言葉を選ぶことが必要だと思います。

私はいつも気を付けて話をする事は 自分の言葉を使い、聞く人が嫌な思いをしない様にかなり辛辣な言葉も使いますが、笑いながら嫌な事を話すとか、気を付けているつもりです。話の為の話は頭には入りますが、心には入らないと思っているからです。震災を経験し、自分ひとり残され全てを失いどこか物の考え方、見方が変わったのかも知れません。生かされた人間は今を精一杯誰かの為にそして自分の為に生きるべきと考えるからです。読書をする事により語彙が増えます。自分の言葉を増やせば話の内容も増えるのではないのでしょうか？



英語の部 代表者 小菅あけみさん (盛岡クラブ)

論題を見て、今一番自分が伝えたいことは何だろうと考えたとき、2期4年間にわたる国際を通したトレーニングの経験を少しでもシェアできたらと思いました。

聞き手は、何を私から期待しているかを考えながら、共感を得て話したいと思いました。今回は ITC-J のお仲間から聞いていただくので、ITC で培ったものが私の人生をどう変えたかを話し、これからの前向きな方向を伝えることができたらと思いました。



英語でのスピーチを日本人に向けてするデモンストレーションなので、わかりやすい英語で早口にならないように話し、絵や写真を使いました。日本語での要約は前もって渡してあるので、会場の反応を見ながら準備した項目を選んで話しました。これからのワクワクするような人生の可能性が、聞いてくださった方の心に浮かんで来れば、大変うれしいです。

クラブからお便りを寄せて頂きました。

東京クラブ

堀江祐子

東京クラブは毎年プログラムが充実している、と思います。今期も9、10月と2ヶ月に亙り、ITC-Jの新しい組織と東京クラブのこれからのあり方について全員で真剣に討議しました。1月にはみんな夫々に自作の短歌を提出し、短歌に詳しい会員に解説と指導を受けました。4月は外部の講師をお呼びして聖書の翻訳についての講演を聞き、その後、グループディスカッションを行いました。

これらのプログラムは全てプログラム委員会の熱意と努力によるもので、委員会は期の初めだけでなく、毎月、例会後にも開いています。

また、命題を与えられた会員はそれに応えるべく一生懸命に勉強し、それらが今の東京クラブのプログラム活動の大きな原動力になっています。

新入会員につきましては、毎年少しずつですが、新しい会員を迎えています。今年も2月にはお一人の導入式を行いましたし、また、入会ご希望の方がいるのも嬉しい事です。



東葛クラブ

前川晃子

30周年を迎えた東葛クラブは、今や“風前の灯”クラブ。崖っぷちである。会員が1名欠けても、クラブの継続は困難。緊張の一年を過ごしてきたが、無事、来期継続の見通しもついた。会長テーマ「誰かのために」を考えると、7分の1が7をしっかり支えていることを強く意識する年であった。



そんな危機感のなかでも毎月の例会プログラムは、手抜きなし。毎月、全員参加で、決められた課題に誠実に取り組んだ。30周年記念行事としては、12月にアクア千葉クラブから3名のゲストをお迎えし、古楽器プサルタリーの音色を楽しんだ。3月、石川恵悟、武井直子、藤原雅子会員のコラボによる「なるほど講座スペシャル、大江戸玉手箱」を開陳。6月には岐阜県瑞浪市にある陶器の窯元を見学の予定。そこは、石川恵悟夫人のご実家である。

少人数クラブの機動性を生かし、崖っぷちに花を咲かせる東葛クラブでありたい！

蕪崎クラブ

鳥谷まゆみ

蕪崎クラブ3月例会は、横浜クラブの橋爪明子さんを講師にお迎えし、「睡眠ってそもそもどんなこと？」という講座を開催しました。

「睡眠のメカニズム」の中では、朝には覚醒させるセロトニン、夜には体を休ませるメラトニンを十分に分泌させる工夫が大切だということを学びました。

その為には、朝から生活のリズムを整える、朝は太陽の光をたっぷり浴びて活動を開始する、3食をきちんと摂る、昼寝は15～30分にとどめる、夕食後のソファなどでの寝落ちはご法度、お風呂はゆっくりと、夜は照明を徐々に暗くしてお休みモードにするなどのすぐに行えることを教えていただきました。ゲストの皆さんからも「メカニズムから分かり易く説明していただき、今日から実行しようと思います。」などの感想をいただきました。

4月プログラム「脳を大切に」では、脳の休息に欠かせない睡眠について、おさらいを兼ねて実行していることを参加者全員が発表しました。



彩玉クラブ

増井美恵子

彩玉クラブ25周年記念行事の一つ「香道体験」

2018年4月18日(水) 13:30から2時間

埼玉県深谷市の国済寺というお寺で「香道体験」を開催しました。持田けい子氏(香道・御家流師範)を講師に近隣の友達などゲスト約40名を交えて代表的な組香「源氏香」を体験しました。「香道」とは香木の香りを楽しむことです。公家の姫たちが愛でた伽羅などの香りを源氏香で楽しみました。彩玉クラブから二人頼まれた執筆(記録係り)は小筆で体験者の答えを書き、正しい答えには赤墨で印をつけ、本格的な形でさせていただきましたが、なかなか正解する人がいない

ほど難しいものでした。厳かな雰囲気の中、お香の豊かな香りを慎重に「お香を聞く」という初めての経験を楽しみました。お茶の時間には、源氏香の形をした干菓子や彩玉クラブ全員でお抹茶を立て、ゲストに楽しんでいただきました。「香道」はお香に炭を起こすことや会場設置など準備からも大変厳かなすばらしいものだという体験をさせていただき、会員もいい25周年記念行事ができたと喜んでおります



横浜クラブ

川井恵子

25周年記念フィールドトリップが5月19日に行われます。大磯の迎賓館、旧吉田邸を訪れ、大内旅館で昼食を取ります。この5年間少数クラブとして存続してきましたが、最近会員が増えて10名となりました。若い男性会員や大学生も男女複数加入しました。先日のカウンスル大会でその理由についてご質問がありましたが、次の理由を挙げたいと思います。

1) 直ちにクラブ規則を修正し、大学生向けの会費を設定し対応した。 2) 20代の会員の考えをプログラムに反映させた。入会の希望があった時積極的に対応したのがよかった。また、1月の「留学生スピーチ大会」を「国際交流会」とし、多くの参加者を得た。前者は、プレッシャーになるが、後者だと気軽に参加できるという理由であった。横浜クラブは、今輝いています。「輝いている人」に橋爪明子会員が推薦されました。ただ、高齢化の波が押し寄せていることも否めません。



盛岡クラブ

柴田さよ子

盛岡だけで活動しているとネガティブになりがちですが、お元気な皆さまにお会いすると頑張らなくてはと思います。今年の2月に佐藤智子さんがご逝去され、命の儚さを改めて痛感しています。そんな中で、スピーチコンテストで盛岡から英語と日本語の代表を選んで頂いた事は、大きな励みとなりました。

写真をとの事なので、亡き智子さんがお元気なころの写真を添付します。

花巻クラブと盛岡の英語クラブが合同の例会を開催した時の嬉しい写真です。

このメールをメッセージとさせて頂ければ幸いです。



アクア千葉クラブ

菊池秀子

3月プログラム 説得のスピーチ「私を選んで！」をご紹介します。

2つの職業（ジャズダンスインストラクターと結婚式場司会者）への応募者としてそれぞれ3人をあらかじめ、くじで割り当てておく→当日いかに自分が有能でその職に適任であるかをひとり5分内でスピーチをし、そのあと3人一緒に集団面接に臨む→面接官たちがスピーチと面接での受け答えをとおして最も説得力があった応募者は誰かを話し合い採用者を決定する→面接官の代表者が誰を選んだかをその理由とともに発表する。応募者は実年齢であること以外どう脚色してもいいことになっていたのので、70代でジャズインストラクターに応募したり、長年主婦であった人が一念発起して結婚式場の司会者に応募したりと、それぞれ役になりきり個性的でユニークなスピーチを披露し、集団面接においても鋭い質問によどみなく巧みに受け答えをし、大いに会場をわかせた。我がクラブの会員がいかに役者ぞろいかを実感したプログラムでもありました。



新入会員と再入会員が入って、うあっ！人が増えた、嬉しい！と思ったら、再入会員さんは辞められました。う…残念。淋しいですね。仕方が無いです。

新入会員さんは花屋さんを経営しています、娘さんお二方と一緒に。一人でも会員さんが増えることはとてもうれしい限りですね。

私が会長をして 9 か月になろうとしています、何が出来るか、わかるのか、とても不安でしたが、やればできるという思いだけで夢中でかけてきました。役が私を成長させてくれます。ありがたいことです。他の会の方々のおさそいを受けると華やかですね、私達も真似たいですね。

この写真は導入式の時の写真です。

小菅あけみさん、小川澄子さんに“ありがとう”ですね。教えられることがたくさんあります。



今後の予定

2018年6月4日(月)5日(火) 第36回 ITC-J 年次大会
ご報告はNo.8のホームページの中で

編集後記

- ・ご覧いただき有難う存じました。初めてのお役で手探り状態でしたが、お忙しい中、快く原稿をお寄せくださいました皆様のお陰で、何とか務めることができました。感謝申し上げます。3号発行直前で中身を取り出せないまま、パソコンが壊れるというハプニング付きでしたが、無事にお届けできて、ほっとしております。(C・N)
- ・編集のお役目を通じ、カウンスルの皆様とつながっている！という実感を味わいました。北の盛岡、花巻クラブからの原稿も楽しみでした。皆様にも誌面を通じ、カウンスル No. 8のきずなを味わっていただければ、うれしいです。(A・M)
- ・ワクワクされながらご活躍の皆様方の魅力的なお姿を、カメラマン役を通して接する恩恵に預かりました事に何よりも感佩しております。(M・H)